

■所信表明

引き続き会頭に選任されたことを光栄に感じている。2007年5月に京都商工会議所の第16代会頭に就いて以来、中小企業の活性化が不可欠であるとの信念のもと、「知恵産業のまち・京都の推進」を基本方針に、京都の地域特性や企業独自の強みを活かした中小企業の育成・支援に取り組んできた。「知恵産業のまち・京都」は、オール京都で地域の未来像を共有する「京都ビジョン2040」の中でもしっかりと位置づけられている。脱量産の発想のもとで価値創造都市を目指すために多様な知恵ビジネスを生み出し集積させる取組は、本所を起点に行政や他の産業支援機関にも広がり、オール京都の連携を象徴する取組となっている。本年3月には「京都経済センター」がグランドオープンを迎え、本所や京都知恵産業創造の森を中心に、入居する経済団体や産業支援機関等による知恵の「交流と協働」が本格的に始動していることを、大変嬉しく期待を持って見守っている。

7月の記者会見で発表した通り、京都経済センターの完成を見届けたタイミングで塚本副会頭に会頭職をバトンタッチすべく準備していたが、塚本副会頭の体調回復に万全を期すため、当面は私が会頭を続投させていただくこととなった。具体的な交代の時期については、来年3月の通常議員総会において次期会頭の選任を正式に諮り、4月の新年度から塚本新会頭による新体制のもと、本所事業をスタートしていただきたいと考えている。当面は暫定的な体制となるが、塚本副会頭の体調に十分配慮しながら、本所ビジョンに基づく取組を円滑に引き継ぐことができるよう密に相談して進めていきたい。

そういった想いを踏まえ、「未来につなぐ知恵産業の創造」をテーマに、今期の取組方針・重点分野を「京商ビジョン FUTURE」として取りまとめた。このビジョンについては、塚本次期会頭に引き継いでいただくことを念頭に置き策定した。ビジョンの名称については、未来を担う「人」や「産業」、そして「知恵」を数多く生み出し、次世代へと継承・発展させたいという思いを「FUTURE」というネーミングで表現した。このビジョンをもとに、新役員・議員をはじめ、会員企業と力を合わせて知恵産業を未来へとつなげていきたい。

今回のビジョンでは、「知恵産業のまち・京都の推進」を基本方針として、「人材の活躍・育成力」、「産業の成長力」、「まちのブランド力・吸引力」という3つの視点から目指したい姿を掲げ、「イノベーションの創発」「知恵ビジネス展開のための橋渡し」「提言・協働」「人材育成」など、強化する6つの機能と関連させるかたちで、施策の方向性を整理した。

このうち、「人材の活躍・育成力」では、「未来を担う多様な人材が花開くまち」を目指して、「新たなベンチャーやイノベーション人材を発掘・育成するエコシステムの構築推進」等の施策に取り組むことを掲げている。具体的には、企業等にも協力をお願いして「産業人材育成基金（仮称）」を設け、若手起業家の発掘・育成等に重点的に取り組んでいくつもりだ。

さらにビジョンでは、施策の顧客・パートナーとして「会員」を位置づけ、それぞれの目指したい姿と会員の力を「クロス」させることで、「会員とともに可能性を開く京商」の姿を描いている。会員の力、会員の知恵をしっかりと取り込むために、会員参画型の事業や会員ニーズを踏まえたサービスを強化し、会員満足度の向上を図っていきたい。また、持続可能な社会の実現に向けて、京都の強み、企業の知恵を活かす視点から、各施策の重点分野と関係するSDGsのアイコンを表示した。このビジョンを効果的に推進するために、京都知恵産業創造の森や京都経済センター入居団体、京都府・京都市や文化庁、地域との「連携と協働」を強化し、「知恵産業のまち・京都」をさらに推進していきたい。

■副会頭紹介

5名の副会頭を紹介する。

ワコールホールディングス・代表取締役会長の塚本能交さん、堀場製作所・代表取締役会長兼グループCEOの堀場厚さん、京セラ・代表取締役会長の山口悟郎さんの3名には留任いただいた。

新たに、副会頭をお願いするのは、村田製作所・代表取締役会長兼社長の村田恒夫さん、京都銀行・代表取締役頭取の土井伸宏さんの2名だ。

村田さんは、平成 20 年から常議員として本所の事業に関わっていただき、電機・機械金属部会では部会長をお務めいただいた。また、京都産業 21 の理事長としても京都産業の発展に向けて貢献いただいております、京都を代表する企業の創業家出身の経営者として、国内外でご活躍されている。こうしたご経験や手腕を活かし、新たに副会頭として、京都経済センターを核とした産業振興の分野で、お力を発揮していただけることを期待している。

土井さんは、京都銀行の頭取、京都銀行協会の会長としてご活躍で、今期から柏原前副会頭のあとを受けて、副会頭としてご活躍いただきたい。

副会頭について、前期の 7 人から 2 人減となっているが、塚本次期会頭に交代するまでの暫定的な体制として 5 人を選任したものであり、次期会頭のもとで必要に応じて追加で選任いただくことを考えている。専務理事については、兒島宏尚さんに引き続きお願いする。

記者からの質問事項

■塚本新会頭へ引き継ぐにあたって、期待することを教えてほしい。

(立石会頭)

これまで 12 年以上にわたって「知恵産業のまち・京都の推進」という基本方針を柱に取り組んできたが、「知恵産業」という理念は京都府や京都市にもオール京都の取組として広がっており、それが基盤となって京都経済センターの完成という大きな成果に結実したと考えている。塚本さんには、京商ビジョン FUTURE に掲げた「未来につなぐ知恵産業の創造」の言葉のとおり、これまでの方針を継承し、さらに発展させていただけることを期待している。

塚本さんは世界に誇るブランドを築いた企業の経営者として、素晴らしい実績をお持ちだ。その手腕を活かし、これからの京都ブランド構築に取り組んでほしいと考えている。京都の大手ものづくり企業は BtoB 企業が多い中で、BtoC 企業の代表として、新たな京都産業の創造に取り組んでいただきたい。また、文化庁が京都に本格移転することを機に、「文化×産業」という視点で様々な取り組みを進めてほしい。

■会頭職を引き継ぐにあたっての意気込みや、思いを伺いたい。

(塚本副会頭)

京都は地理的・自然的な優位性を持たない中で、京都の外から入ってきたものを活用することで付加価値を生み出し、東京や大阪とは違う独自の多様な産業や文化を創造してきた。他の大きな企業と競争を避け、独自の知恵を活かして高付加価値を生み出すことが得意な企業が多く存在する都市であり、まだまだその力を活かしきれていない部分がたくさんあると感じている。まだ表に出せていない力を発信し、京都という都市のブランド価値を高めるための取組を進めていきたいと考えている。

■京商ビジョン FUTURE に基づき、具体的どのような取組に力を入れていきたいのか。

(塚本副会頭)

先ほども述べたように、京都には加工などにより高付加価値を生み出す企業が数多く存在し、それが京都の独自性につながっている。この強みを活かして世界的企業に成長した企業がたくさんあり、その可能性が京都というまちにはあると考えている。京商ビジョン FUTURE の重要な柱の一つである新産業の創造に向けて、京都の力をさらに発揮できるような事業に取り組んでいきたい。

(山口副会頭)

京都が培ってきた独特の知恵を活かし、付加価値をさらに高めていくビジネス・産業を生み出していくことが重要だと考えている。京都というまちでしかできない、京都の企業にしかできないことを生み出し、高収益を目指すようなビジネスの支援に力を入れていきたい。

(村田副会頭)

まだ副会頭に選任されたばかりであり、具体的には会頭や他の副会頭と相談しながら決めていきたいと考えている。まずは、前期まで部会長を務めていた電機・機械金属部会をはじめ、担当となっている部会や委員会の活動を支えていきたい。

(土井副会頭)

京都の特色として、伝統産業がしっかり根付いていると同時に、新しい産業も生まれているという点が挙げられる。会員の中には伝統産業に携わる企業が多くあり、これまで培われてきた産業の知恵を活かしながら、新会頭のもとで新たなビジネスを生むための取組を進めていきたい。

■体調が芳しくないと聞いているが、差し支えない範囲でこの間の経過や状況を教えてほしい。

(塚本副会頭)

現在、体調はすこぶる健康だ。5月に手術を行い、順調に回復している。来年4月には会頭職をお引き受けできるようしっかりと準備したい。

以 上